

供養とは忘れないこと

鳥取県 吉成寺 住職 岸本隆志

私はお盆の時期になると、「リメンバーミー」というディズニー映画を思い出します。「リメンバーミー」とは、日本語に訳すと私を忘れないという意味です。この映画の舞台はメキシコ。年に一度、死者が家族の元へ戻ってくる「死者の日」。主人公の少年ミゲルが死者の国に迷い込み、さまざまな出会いや経験を通して成長する物語です。メキシコでは「死者の日」に、私たちがお盆に迎え火を焚くように、それぞれの家庭の祭壇に、その家の代々の家族の写真が飾られ、死者を迎えるそうです。

ミゲルは死者の国で、写真でしか見たことのないご先祖と出会います。ご先祖は、寂しげにこう言います。「私たちは、子孫や、今生きている生の世界の人々から忘れられると、死者の国からも完全に存在が消えてしまう。それが2度目の死なのだ」と。ミゲルはそれを憂い、先祖の2度目の死を何とか防ごうと奮闘します。

この場面は、脈々と命のバトン繋いで、私たちに命を与えてくださったご先祖への感謝の気持ちを忘れないようにという、戒めのメッセ

ージが込められているのではないのでしょうか。

私の師匠が、ご法事の際に常々話していました。「ご命日から年月が過ぎていきますと、ご供養がおろそかになりがちです。埃だらけの仏壇、雑草だらけのお墓を見ると、ご先祖が寂しがっておられるように思います。私達生きている人間も、忘れられると寂しいですよ、ご先祖も同じだと思います。忘れないという事が、なによりのご供養です」と。

忙しい現代社会。私たちは日々の仕事に、家事に、趣味に、地域の活動にと慌ただしく過ごしています。自分の事で精一杯で、先祖供養が疎かになることもあるでしょう。しかし私たちは、多くのご先祖が繋いでこられた命を授かって今があることを忘れてはなりません。忙しき故、お墓参りや、仏壇の前で手を合わせる事ができなくても、ご先祖から授かった一人一人の尊い命を大切に思いながら生活する事も先祖供養です。ご先祖への感謝の気持ちを日々忘れずに、日送りをしてまいりましょう。